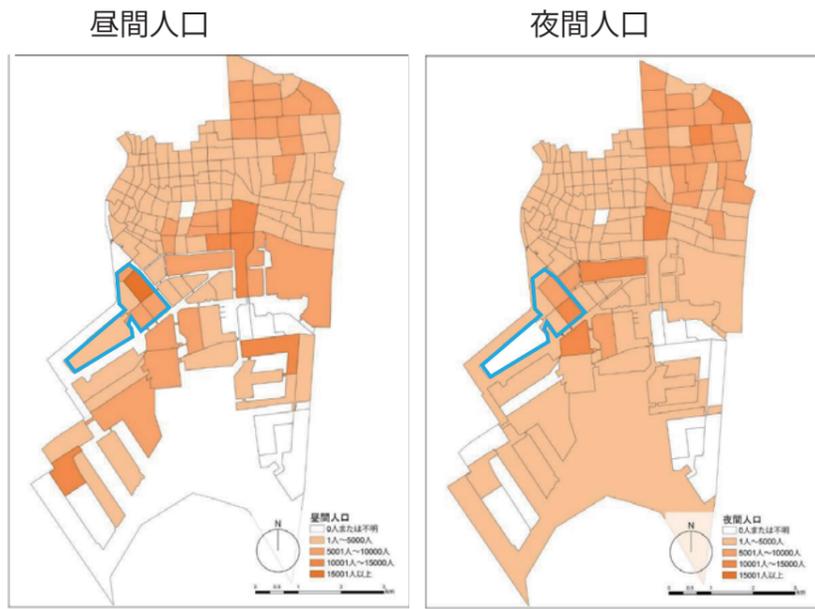
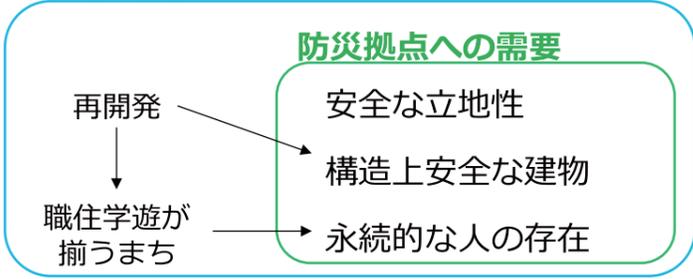


豊洲地区のポテンシャル 江東区及び豊洲を通して首都直下地震における被害の可能性、都市の課題について理解が深まった

豊洲地区は臨海部に位置し、災害時において都内でも有数の安全地帯である。さらに、職住学遊をコンセプトとした再開発の影響で、臨海部では唯一頑丈な建物が揃い、常に“人”が存在する地区である。豊洲の特性は、災害時の防災拠点に必要な要素を持ち合わせている。

豊洲の特性



防災対策調査及び見学会 開発による都市全体・各ビルの災害対応を学ぶことができた 企業とのやり取りで企画力、調整力を身に付けた

豊洲 IHI

帰宅困難者受け入れ：有り
 備蓄の提供：来客 30 人未満分



豊洲キュービックガーデン

帰宅困難者受け入れ：有り (数百人)
 備蓄の提供：無し



豊洲フォレシア

帰宅困難者受け入れ：100 人
 備蓄の提供：100 人 × 3 日分

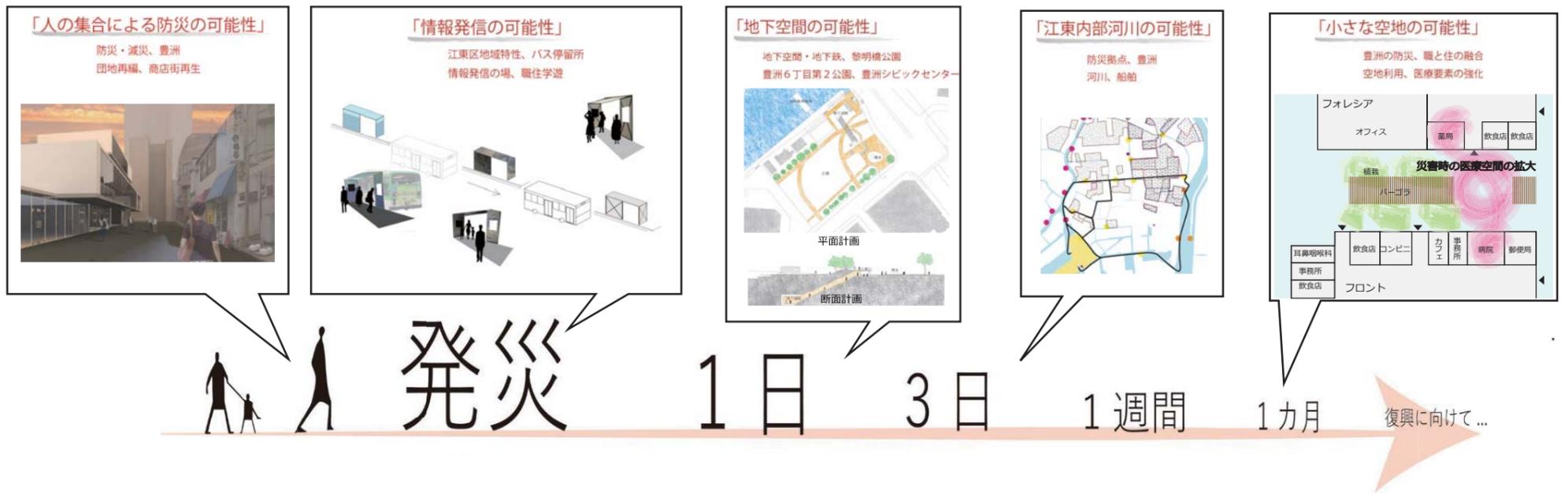


豊洲フロント

帰宅困難者受け入れ：無し
 備蓄の提供：無し



防災ヘッドクォーター 災害について多角的に学び企業の方にエスキスをもらい説得力を持つリアリティのある提案をまとめた



成果発表会 企業の方に発表することでプレゼン能力が身についた

豊洲地域の地権者企業によって構成される「豊洲2・3丁目まちづくり協議会」にて、『東京臨海地域100年のまちづくり』をテーマにゼミ2演習課題である防災ヘッドクォーター構想及び研究成果を取りまとめ発表を行った。



参加した企業の方からは以下の具体的なアドバイスをいただいた。

- 情報発信はホームページだけでなく地下通路等を使い積極的に働きかける工夫が必要
- 災害時のビル間の連携について具体的な内容を詰める必要がある
- 津波被害が想定されるため地下空間利用は十分なシミュレーションが必要

今後



今後も豊洲及び周辺に関する情報を研究、論文等で収集

収集した情報を図化し情報を発信、防災能力の向上を図る

将来的には地域にゼロエネルギーハウスを建築し災害時においても機能を維持することができる拠点を作ることができる。これは、避難所や情報発信の場として使用が可能であり豊洲地域の防災性能を高めることにつながると考えられる。